



社団法人
長崎青年協会会員章

参加する事を目的とする
自分の建設と
会員の親睦を図り
もって地域社会の発展に

我々は会員の团结と
相互扶助の精神に基に

NAGASAKI YOUNG GENERATION ASSOCIATION

社団法人長崎青年協会

スローガン 本気で語らい実行し、そして新たな歴史を創りだそう



岩崎弥太郎



後藤象二郎

今月の行事

9月 5日 理事会

16日 ヶ

17日 全体研修

18日 ソフトボール大会

9月 21日 定時例会

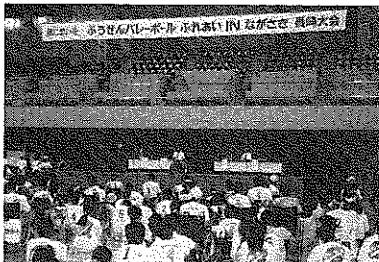
NYA press no.183
September 1994

9

発行 長崎市魚の町7-7
(社)長崎青年協会
会長 桑田啓伍
編集 広報委員会
広報委員長 猪渡卓

第2回大会 風に想いを……

「風船バレーボールふれあい in ながさき」長崎大会



去る8月20日(土)、好天に恵まれ第2回大会が開かれました。参加チームは、長崎県内及び北九州・鹿児島・山口県など各地からの参加で28チームとなり、又、127名におよぶボランティア(純心女子短期大学・純心女子高等学校・玉木女子短期大学・長崎大学・長崎県立女子短期大学・活水女子短期大学・長崎医療短期大学・一般参加)の皆さんの協力のもとで行われました。

開会式では、大会実行委員会委員長出口恭一氏、長崎県知事代理障害福祉課長、長崎市長本島等氏と心のこもった挨拶をいただき、第1回大会(昨年)の優勝チームレクチャーの竹下氏より力強い選手宣誓が行われ、いよいよ10:00より熱戦の火蓋が切られました。

試合内容は、昨年に増してどのチームもスパイクを多く活用し、ボールもよくひろう白熱したゲーム展開になり、応援の皆さんも大きな声援を送っていました。

午前中で予選リーグは終わり、昼食後、ボランティアの皆さんも交えてのふうせんバレーボールのふれあい体験を行いました。

和気あいあいとした楽しいゲームの中にも、車イスなど障害者と息を合わせるプレーヤーに汗を流しながら真剣に参加していました。

午後からは、決勝リーグが行われ、決勝戦には去年の全国大会優勝チームスラップスティック(北九州)と準優勝チームドラゴンボールZZの対戦となり、やはり決勝戦ともなると両チーム共レベルが高く障害者と健常者がお互いに1つとなりボールを追う姿には、このふうせんバレーボールと言うスポーツのあり方を感じさせられました。

白熱した決勝戦も終わり、優勝はスラップスティックチーム、準優勝はドラゴンボールZZチーム、3位ドリームハートブレンドチームの結果となりました。和やかなふんいきの中、各チーム賞の授与が行われ、大会審査委員長伊坂哲氏より「去年に比べ今年はレベルアップしています。私は、こんなに背が高いのですが、このスポーツは背の高さは関係ありません。11月には全国大会がありますが、優勝のチャンスは全チームにあります。皆さんの練習の成果にかかっています。」と心強い総評をいただきました。テーマソングの「風に想いを……」を全員で合唱した後、来年に向けて発足した振興会の会長になられた野田恵子さんが閉会の言葉を述べられ終了致しました。



ふれあい体験

一丸となり、それを支えたプロジェクトメンバー、当日お手伝いいただいたボランティアの皆さん、御協賛、御協力いただきました大会関係者の方々など多くの皆様のおかげです。厚く御礼申し上げます。最後になりましたが、御参加、御協力いただきました皆様、本当に疲れ様でした。第3回大会も、メインアリーナで御逢いましょう。

平成6年8月20日

於: 長崎県立総合体育館
(メインアリーナ)



出口恭一氏



スラップスティックチーム

ふうせんバレーボールに参加して

●ボランティアのみなさん



乗松整形外科 尾崎勝博さん

第2回のふうせんバレーボール大会inながさきの開催おめでとうございます。

私は、スポーツ選手のケガ後のリハビリテーションを行っている理学療法士です。自らスポーツを愛し、スポーツに没頭している選手が好きで、何かその人達のためにしてやれることがないか、毎日悩みながら選手とせつしているわけです。プロの選手であろうが、ゲートボールの選手であろうが、またふうせんバレーボールの選手であろうが、スポーツを愛し、スポーツを楽しんでいることにちがいはありません。

ややもすると今のスポーツ界は勝つことだけ、名声をうることだけが目標となりがちですが、今回参加してみて、選手をみていると、本当に障害をもちながら、楽しく、チームワークを取りながら、プレイしている姿に心をうたれました。そして“健常な人にも私達は負けないんだ”という気迫を感じました。

今後も3回4回と、回を重ねていかれることを願います。又、私自身もずっとこの大会のボランティアとして参加していくことを約束したいと思います。

長崎大学 平田さん、川村さん、川添さん

1つのコートの中で、障害者と健常者が気持ちを1つにしてボールを追う姿、一生懸命プレーする障害者とそれを周りからガッチャリ支える健常者との息の合ったプレーに感動をおぼえました。

このようなふれあいの場に参加できたことを大変うれしく思いました。



純心女子高等学校 ミゼリコルディア部

○全ての人が同じスポーツで同じ汗を流すを見させてもらって、一生懸命に物事にとりくむことの大切さをあらためて思いました。

昨年にひきつづいて、この大会に参加させていただいたことをとても感謝しています。

(3年 八木美奈さん)

○今年、初めてこのふうせんバレーボールに参加しました。今まででは障害者の方々と接する機会はありませんでしたが、とても楽しかったです。けっこうみんな明るく、おもしろい方々なので驚きました。今日は、思い出に残る1日でした。(3年 田宮さん)

○初めての体験で最初はきんちょうしていたけれど、選手の方やスタッフの方たちが親切に接してくれたのでうれしかったです。私はお茶を担当しましたが、飲んでくれる人が「おいしい」と言ってくれた時が1番うれしかったです。(1年 堀さやかさん)

○ふうせんバレーボールというスポーツがあることを初めて知り、最初はどんなことをするのだろうと少しきんちょうしていたけど、選手の人達と近くで接することができたのでとってもうれしかったです。

障害者の人々も障害をもっていない人々もみんないっしょにできるスポーツがあることはとってもすばらしいことだと思いました。(1年 鎌田知美さん)

○障害者の人達と一緒に風船バレーとか何かをするというのは初めてだったので、参加してよかったです。と思いました。年に1回だけじゃなく2~3回位はあれば、と思いました。(1年 森香織さん)



長崎県立女子短期大学（代表）榎木みどりさん・浜崎真由美さん

○初めて、ボランティアとして参加したふうせんバレーボール大会ですが、思ったよりもルールなど厳しく、一般のバレーボールとは違う、新しいスポーツに出会えたような新鮮な気持ちがしました。全員がボールにふれるというバス回しなど、温かい雰囲気がコートの外で応援する私達にも伝わってきて、選手と共に、参加者全員が楽しむことが出来る、よい機会だと実感しました。

また、このような大会があったら、ぜひ参加して多くの人々と交流を深めていきたいと思います。



玉木女子短大 西こずえさん・峯川千里さん・原口智子さん・河野知奈美さん

○今年、初めて風船バレーに参加して、最初、接し方にとまどったり、車イスを動かすのが難しかったけど、障害者の人から、声をかけてもらったので、だんだん慣れてくれました。話しているうちに、チームの中がもり上がりてきて、私達も応援に熱が入り、楽しくゲームをする事が出来ました。ゲームを見ていても、一人ひとりが助け合っている姿や、声をかけ合っている姿を見ていたら、とても心を打たれ感動しました。負けたときは、選手の人と同様、とてもくやしかったです。今日いろんな人と接する事で、もう一度自分を見直す機会ができたように思います。また、来年も、風船バレーに参加したいと思います。



長崎大学医療部技術短期大学部

風船バレーのように、健常者と障害者が協力し合い、共に楽しむことができるスポーツが考案されたことは、とてもすばらしいことだと思います。今後、さらに発展し、全国的な大会が開催されることで選手のさらなる意欲・向上心を引き出し、社会参加へのステップになることを期待します。

「ながさきみなとまつり」振り返って

長崎には、市民が制約なく自由に参加できるお祭りが、町単位ではあったのかもしれません、なかったように思われます。

我々青年協会も、長崎の海についてのイベントはいくつかありました。文化そのものを生み出した港について考えたイベントは、少なかったように思います。

今年、まさに海を港を基点とした開港記念事業やベイフェスタそしてペーロン選手権が、よりいわ所帯とはいえ、長崎の海を港をそして歴史を感じてもらう大イベントを、おたがい協力しあい一本化していこうと決意しました。

子供たちを中心とした長崎を、身近に感じてもらう「飛帆による体験航海」等を含め、いくつかの事業を同時開催型として、我々青年協会も参加をし、長崎が出来た基でもあるこの港を大事にし「生かし」ていきたいとの思いで、主催団体の一員として一緒に協力をさせて頂きました。

振り返ってみるとこのようなイベントでは、当日運営にあたっている方々以外にも多くの人のお世話を成功するのだと感じました。

これから先「ながさきみなとまつり」が、市民に喜んでもらえ、さらに市民の参加をどうすれば出来るのかは、当日運営スタッフ以外の人々（行政や民間団体）をより多く協力してもらえるのかに、かかるところを同時に感じました。

今後「ながさきみなとまつり」への青年協会のかかわり合いを考えた時に、青年協会自身、事業の多さを感じ整理しなければ、ただ事業へ参加する事が青年協会の理念であるかのように感じ、会員間の信頼すら薄らぐような不安定な状況での参加となりそうな気がします。

その事を解決するにも今年のスローガン「本気で語らい実行し、そして新たな歴史を創りだそう」に、のっとって行動することが肝要に思われます。

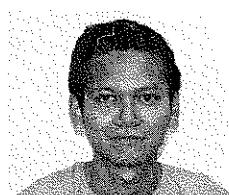


みなとまつり写真館



カチャ コエリオさん（ブラジル）

私の国は、長崎とは地球の反対側にあるブラジルです。お祭りのパレードに参加して、色々な国の人と話ができるうれしかったです。少ししかしゃべれないけど、日本語や英語で異なる国の人達が、お互いの言葉や文化又人柄を話し合い、理解し合うことができ、素晴らしい体験になりました。友人も沢山できて思い出になります。



イサ マスタマンさん（マレーシア）

日本に来て、こういう楽しいお祭りで多くの友達が出来たことが、非常にうれしかったです。こういう経験は初めてでした。

自分の国の衣装を着て、パレードに参加することによって、自分の国のマレーシアを紹介する機会もできました。これで少しでも、私の国のマレーシアに興味を持ってくれる人がいてくれれば幸いです。



青年協会の面々による地球の模型です。松ヶ枝埠頭前にてパレードもいよいよ“地球の人達 皆兄弟 愛に国境はない” 終点です。もう少し もう少し

留学生と市民の集い第3弾 四海樓にて
歓談と楽しいゲームのひととき

ブース



縁日コーナーのサッカーゲーム

ペーロン大会



参加した皆さんとの記念写真

ナイトクルーズ クイズ大会



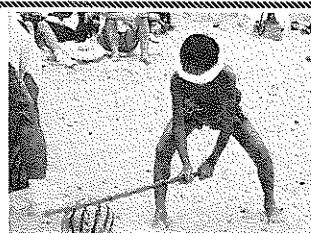
帆船グッズを貰い喜ぶ子供

吉岡誠也君とお父さん
飛帆は初めて乗りました。山下啓介君とお父さん
船が大きいと思いました。吾妻正年君とお母さん
中国の船に見えました。

伊王島ディイクルーズ



飛帆でのデッキ清掃、海水だからしょっぱかったなあ。



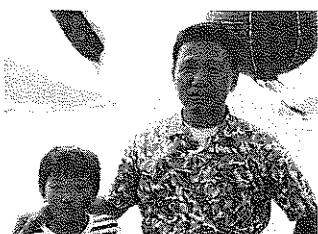
小島海水浴場でのすいか割。右左、の歓声の中みごとに命中。



初体験の竹細工作り、真剣な眼差しです。



新地中華街でチャンポンを食べている伊王島の子供たち。おいしかったなあ～。

池田孝君とお母さん
お年寄りの人たちに竹細工作りを教えてもらったことがいい体験でした。吉川学君とお父さん
竹とんぼを初めて自分で作れたことがうれしかった。

青年協会野球部初勝利!!

会員の皆様、ついに我が青年協会チームが、初勝利をあげました!! 初回から足をからめた機動力野球で、相手チームのミスを誘い、先取点を挙げ、その後も性格とは相容れぬ緻密な野球で、着々と追加点を加え、終わってみれば11-1で大勝しました。

悲運の名将 新ヶ江憲和監督、ついに男になりました! 試合終了後に、メンバーで監督の胴上げをしようと盛りあがったのですが、監督は勝ってかぶとの緒をしめよとばかりに、ニヒルにただ一言、「胴上げは優勝してから」と。しかし、口許はゆるみっぱなし。また元々細い目が更に細くなっていたのでした。

会員の皆様、我がチームはこの勢いをもって、更にがんばります。本当に監督の胴上げができますように、これからもご声援お願いします。

<新人紹介>



松尾 博一君

S38年5月17日生

勤務先 (有)熊沢商事

長崎市上戸町220-1

自宅 長崎市深堀町161-27

家族 妻 利花さん 子供2人



松尾 俊二君

S33年7月24日生

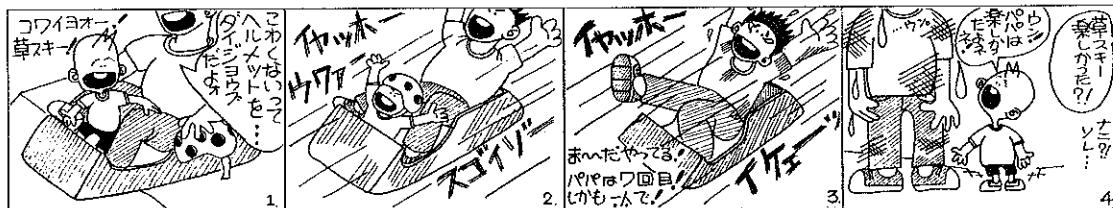
勤務先 (有)南部総合警備

長崎市草住町66番地

自宅 西彼杵郡野母崎町

以下宿2575番地

家族 妻 裕子さん 子供2人



●甦れ！歴史人物100選（表紙説明）●

さて、今月は、前回取り上げたグラバーとも縁の深い三菱の創設者、岩崎弥太郎と同郷の後藤象二郎をご紹介します。二人は4月号で紹介した坂本龍馬と同じく土佐藩の出身で、ともに吉田東洋の下で学んだ時期もありました。

人物紹介

岩崎弥太郎（1834 天保5～1885 明治18）

土佐藩安芸郡井口村に生まれた。始めての来崎は1859年外国事情偵察だったが、藩金を遣い果たし、土佐へ帰る。二度目は1867年で長崎土佐商会主任として来崎。この時の経験が後の三菱財閥創設の基礎となった。

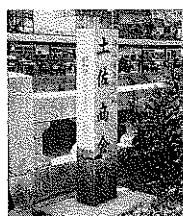
後藤象二郎（1838 天保9～1897 明治30）

坂本龍馬の「船中八策」をもとに大政奉還の建白を行った。維新後、政府の中枢にいたが征韓論にやぶれ下野し高島炭鉱の経営に就くが、不振のため岩崎弥太郎に譲り、板垣退助等と自由党を結成し官界に復帰した。

ゆかりの地紹介

土佐商会跡

浜の町；4月号で海援隊発祥の地として紹介したこの場所に長崎土佐商会主任として赴任した。



後藤象二郎邸跡

金堀町；KTN横に後藤象二郎邸跡の石碑がある。

